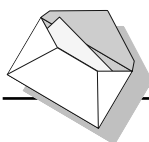


和・WA・〇通信



一般社団法人なごみの里
〒683-0033 鳥取県米子市長砂町 628-1
TEL/FAX 0859-38-4321
E-mail staff@nagominosato.org
<http://nagominosato.org>
twitter @ShibataKumiko / @NagomiOrg



感謝を込めて

代表 紫田久美子

明けましておめでとうございます。

看取り活動を始めて12年。

昨年、看取り士として関わった、64歳で旅立たれた男性の娘さんの言葉です。

「私は行くたび父に抱きつき、頬ずりをしました。
父の寛大さ、父の胸の中にある安心感、必死で生きている胸の鼓動、
薬の副作用でガサガサになった爪や指の感触、父の匂いを勿体無いほどに
感じ取りました。
愛おしい…病院を訪れた時の至福のひとつでした。そして旅立ち。
父に触れることで感じてきた全てのものが、私の身体の中にしっかり収め
られています。
それは、共に居た幼い2人の我が子にもしっかりと手渡されています。
これからの人生を父と共に歩んでいきます。」

私は、触れ合う事を丁寧に重ねてきました。合掌は触れる事の原点。
右手に左手を合わせると右手は触れられているのか触れているのか分から
なくなります。そうする内に右手と左手は一つになり、触れている感覚と
触れられている感覚が行き来します。こうして最期の時、旅立つ人と一体
感をあじわった家族はどんな贈り物より素晴らしい希望を手にすると思っ
て頂いています。今年も命の贈り物が手渡せる社会づくりに尽くします。

どうぞ本年が輝く年になりますようにお祈りしています。

感謝 合掌

エンゼル通信 -暮らしの輪を全国へ-

看取りボランティア“エンゼル活動”は地域の方たちと一緒に交代で幸齢者様のそばに寄り添って、手を握ったり身体をさすったりする見守りボランティア活動です。皆様のおかげで登録員数は250名を超えます。徐々に全国へ活動の輪が広がっております。



地元、米子南高等学校の生徒さんもボランティア活動へ加わって下さり、地元中海テレビ様にも取材して頂きました。活動内容について学校で発表会がありましたので、その時の内容をお伝えさせていただきます。



エンゼル活動を通して、
幸齢者様を一人の時間にさせるより
誰かが傍にいた方がいいと思いました。
時間は短時間ですので、誰でもボランティアが行えるということ。
地域の方が関心を持って、
幸齢者様を支えることが大事だと思いました。

米子南高等学校・畑なつ美様、前田早輝様より

エンゼル利用者様より感想頂きました！

母が一人、家で留守番することが難しくなり、日曜の午後から1時間、エンゼルさんに来て頂き、半年になります。この間、私は安心して買い物に行け喜んでいますが、母にも嬉しい変化があります。皆さんとお話した後は、表情がイキイキしています。母のそんな表情は、私にとっても幸せなことで、皆さんに感謝の気持ちで一杯です。（松江市でご利用 松浦様）

ありがとうございました！

☆エンゼルチームは、年齢・住所・肩書問わず、誰でも無料で入会できます。
ご連絡はなごみの里まで。



エンゼルチームメイト
大募集中！
高校生も頑張ってます！



AJCC-オールジャパンケアコンテスト-開催！

第1回AJCC-オールジャパンケアコンテストは私どもが主催させて頂きました。今年で3回目となるコンテストは米子市にて盛大に開催されました。

介護に真剣に向き合う介護職の皆様のまなざしは、とても輝いておりました。



第3期、4期 看取り士養成講座 修了式!

看取り士養成講座は、「胎内内観研修」と「暮らしの作法、死生観講義」などを中心とした研修となっております。この度第3期、4期生様が研修を終えられ、修了式を開催致しました。今回は講座を終えての感想を記載させて頂きました。



第3期生様



第4期生様

柴田さんからご指導いただいた「看取り」の素晴らしさや自分が経験した父の「看取り」からもらったものの大きさを考えると、もっとももっと、世の中に「看取り」は素敵なもの、と発信していかななくてはと、強く感じます。「死」は恐ろしいものでもなく、全てが終わってしまうものでもなく、その方が生きてきた人生の大きな区切り。「命のバトン」を渡すときなのだ、ということも穏やかに伝えていきたいと思えます。人生の最期をその人らしく、美しく。舞台の幕が降りるその「時」をしっかり見届けたい。

第5期生募集中

柴田流胎内体験内観



誰もが母親の胎内の時間を過ごし、生まれ出てきます。胎内にいるときは、やさしい母親の愛情に包まれた穏やかな空間がそこにはあります・・・。

静かな時間で自己を見つめなおし、自分が胎内にいる時にさかのぼり、自分の両親がどんなに愛してくれていたかを気づくための研修となっております。

<研修を受けての感想>

内観をしてみると、してもらったことというのは当然のようでいて、欠かさず面倒をみるだけでも大きなことだと思いました。その中に、欠けているもの、もらえなかったものを探すよりも、成長した自分になっているということが、愛情を受けて育てられたということなんだなと思いました。 <40代女性>

<胎内体験内観の開催日程>

- 1月13日、3月10日・・・会場：なごみの里（鳥取県米子市）
- 2月17日・・・会場：サンエール・相模原（神奈川県相模原市）

お問合せお待ちしております

柴田久美子の死生学

社会学者 上野千鶴子先生 推薦

～看取り士が死について語る 少人数講座～

死に対する恐怖心が拭えない方や、看護、介護職で終末期や看取りに抵抗感がある方・・・他死に対する疑問など、新たな価値観、心構えを発見できる講座です。(2日間、全6回)

<感想> “死生観”とは明確な答えがみい出すことの出来ないものだと思っていました。今まで自分が行ってきた“看取り”に物足りなさを感じ、やはり残った感がありました。今回の勉強で“人の温もり”の大切さがなかった事に気づかされました。人に触れることを大事に家族を巻き込んだ看取りに取り組んでいきたいと思えます。(施設 介護職員)

開催日程 : 1月26、27日 3月2、3日・・・なごみの里にて

支援者様バトンリレー

vol. 20



(VOL. 19の支援者様 西浄寺 住職 釈 秀静 様)

なごみの里の支援者様に、和・WA・O通信に色を添えていただこうと思い、企画いたしました。今回は、鹿児島県 実践人鹿児島さくら読書会 中島 和之 様より、鹿児島開催して頂いた講演会のご様子を送って頂きました。

「柴田久美子さん講演会」

鹿児島県日置市立住吉小学校の全校生徒30人が図書室に集まり、柴田久美子さんの講演は始まった。ビデオを含め30分の時間はあっという間に過ぎ、感想を述べ合う時間となった。指名された子も、挙手をした子も、元気に立つものの言葉にならない。言いたいことはあるのだが、むせんで声にならない。しばらく待ってその子のところへ行き、そっと抱きしめてあげる柴田さん。司会の教頭先生はじっと待ちつつ、それでも6～7人に意見発表の時間を与えた。

講演後、校長先生が柴田さんに送られた子どもたちの感想文を、柴田さんはコピーをして私に送って下さった。3年生の女の子は、「人が亡くなるときは、そのよい心、たましいは、亡くなった人のことをずっと思ってる、人の心に重なるんだそうです」と書いている。3年生の男の子は、「1番心にのこったのは、ぼくたちはお父さんとお母さんの宝ものなんだよ、と言っていたことです」と書いた。みんなすばらしい作文である。

せっかく鳥取県から来てくださった柴田さんに、今度は町内の大人にも聞いてほしいと、夜は老人福祉センターで講演会を開いた。500の人の大ホールに、50人も人が集まった。その中に町内の名士夫婦の姿があって驚いた。あとで校長先生に聞くと、孫2人が今日の講演会の様子をとっても印象的にしゃべっていたらしい。それを聞いたおじいさんおばあさんは、自分達も柴田さんの講演を聴いてみたいと思われたのだそうだ。

この大人たちの講演会の評価は、講演終了後の受付前での書籍販売にあった。感動した聴衆がわれ先にと柴田さんを囲み、それぞれの事情を訴えた。準備段階では書籍は置かないつもりだったが、もしやと思って発送をお願いしたところ、書籍販売だけでも3万円を越したのには驚いた。この数字が講演会の評価かなと思っている。

「死」を語る柴田さんの世界は、なかなか受けのいいものではない。しかし誰にでも必ず死はやって来る。やさしくやさしく、そして大事に今日を生きたいものだ。

なごみの里は全国各地の支援者様の支援によって支えられています。

全ての皆様の尊い真心に感謝いたします。

